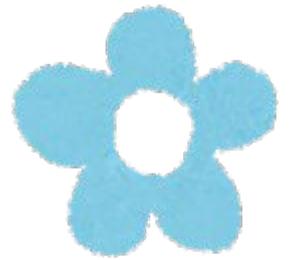
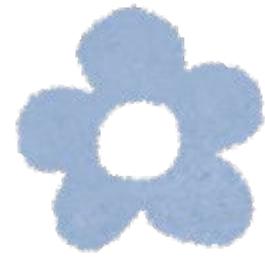
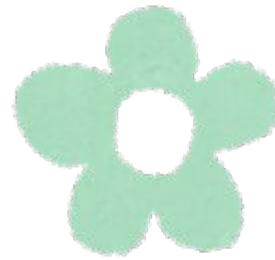
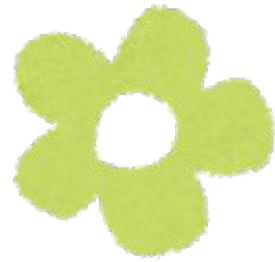
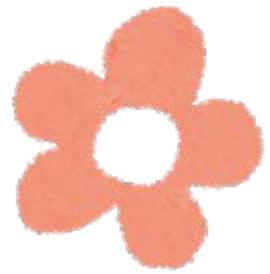


さんびきの子ブタ

著者 hanahana



さんびきの子ブタたちは母ブタに

「自分で生活を送れるように」

と外の世界へ送り出されました



その世界には

体が大きくていつも悪いことをする

おおかみがいました



なまけものの
一番目の子ブタは わら

めんどくさがるの
二番目の子ブタは 木の枝

しっかりものの
三番目の子ブタは レンガ

それぞれ家を作りました



ある日、一番目の子ブタの家におおかみがやってきました

おおかみ「こぶたくん・・・こぶたくん・・・
おれを中に入れておくれ」

子ブタは自分が食べられてしまうと思い

「いやだ、いやだよ・・・いれてやるもんか」
と言いました

おおかみはしばらくだまりました



おおかみ「そうかい、それならプープー息をふき付けて、こぶたくんの家をふき飛ばしてしまおうぞ」

子ブタはこわくなって、わらの家の中で小さくうずくまりました

しかし、子ブタのわらの家はふき飛ばすことはありませんでした

子ブタは不思議に思いつつ、一人でいることがこわくなり二番目の子ブタの家に行きました

二番目の子ブタの家に着き、先ほどおおかみが来たことを

伝えようとしたとき、またおおかみの声が聞こえました



おおかみ「こぶたくん・・・こぶたくん・・・おれを中に入れておくれ」

二番目の子ブタも、一番目の子ブタと同じように自分が食べられてしまうと思い

「いやだ、いやだよ・・・いれてやるもんか」と言いました

おおかみはしばらくだまりました

おおかみ「そうかい、それならプープー息をふき付けて、こぶたくんの家をふき飛ばしてしまおうぞ」と言いました

けれど、おおかみが家をふき飛ばすことはありませんでした

一番目の子ブタはまた不思議に思いました

一番目のブタ「いつも、悪さをするおおかみが何もしない、どうしてだろう？」

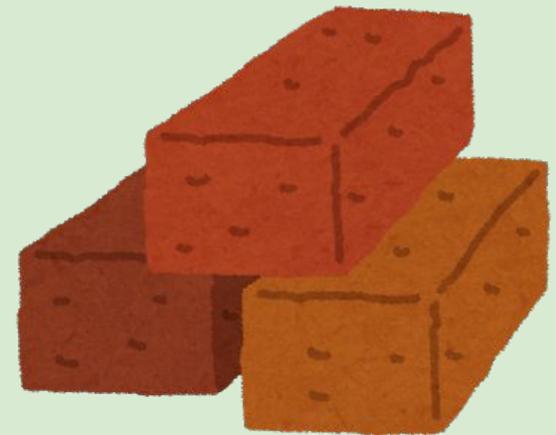
「何かあったのかもしれない……」

二番目の子ブタ「そんなはずがない！！いつも悪さをするおおかみだよ？何かあったとしてもぼくらには関係ないよ」

二ひきの子ブタはもしかすると、三番目の子ブタの元にもおおかみがやってくるかもしれないと思い、レンガの家に向かいました

レンガの家にと到着し、二ひきの子ブタは今日の出来事を三番目の子ブタに話しました。

すると、またおおかみの声が聞こえました



おおかみ「こぶたくん・・・こぶたくん・・・おれを中に入れておくれ」

一番目の子ブタと二番目の子ブタは
「いやだ、いやだよ・・・いれてやるもんか」と言いました

しかし、三番目の子ブタは
「どうして家に入れてほしいの？」とたずねました

おおかみは何も答えませんでした

三番目の子ブタは、不思議に思いおそるおそるドアを開きました

すると、そこには傷だらけのおおかみがいました

三匹の子ブタたちはおどろきました

三番目の子ブタはおおかみを家の中に入れて何があったのかたずねました

おおかみはいつものように悪さをしていたとき、足をすべらせて森の中をころころ転がり、大きなケガをしてしまいました

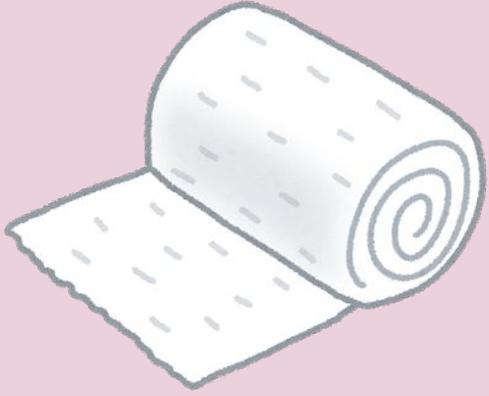
ケガをなおそうとしたけれど、自分の力ではどうすることもできず、みんなの元を回っていました

しかし、いつも悪さをするおおかみをみんなこわがり、だれも相手にしてくれませんでした

一番目の子ブタと二番目の子ブタはどうして家をふき飛ばすと言ったのかたずねました

おおかみはふき飛ばすと言えばびっくりして出てきてもらえると
思ったと話しました





話を聞き終わると三番目の子ブタはおおかみのケガ
を手当てしました

無事に手当てを終えおおかみは少しずつ元気になり
ました



三番目の子ブタは

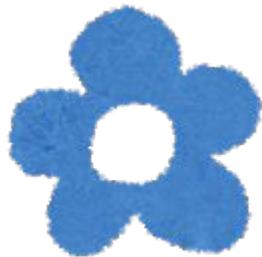
「いつも悪さをするから、みんな君のことをこわがっている。日ごろの行いがよくないから困ったときに助けてもらえないんだよ」

と言いました

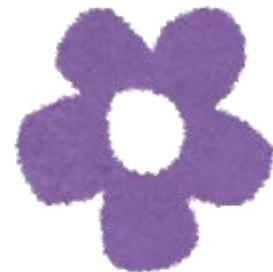
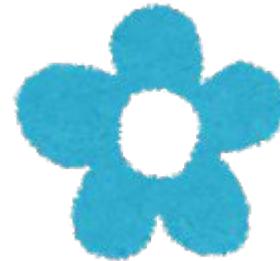
おおかみはこの出来事をきっかけに心を入れかえました

悪さをすることもなくなりました

さんびきの子ブタ達と仲良く遊んでいる声が遠くから聞こえてきます



おしまい



さんびきの子ブタ

発行年 2021年7月26日

著者 hanahana

イラスト いらすとや

発行元 梅花女子大学 梅花web出版